2026 年 2 月、吉田拓郎は「オールナイトニッポン GOLD」に登場し、**元気な声を響かせ引退を否定**するとともに、**大阪と名古屋で 2 日間だけのコンサート、「春だったね 2026」の開催を告知**した。チケットは瞬く間に完売した。

わたしは今日まで生きてみました

吉田拓郎の「僕の歌」と日本の青春

初版3000部

発売 9月下旬
注文締切 8月末

吉田拓郎の 1970 年代から 2000 年代まで、各時代の曲の歌詞を読み解く評論。吉田拓郎の歌が若者たちにもたらしたものは何だったのか。

吉田拓郎が生まれたのは 1946 年、戦争が終わってすぐの時だ。**彼の歩みは日本の戦後そのものだった。**敗戦、復興、政治の季節の到来とその後の空虚、平和と享楽、個人主義と自由主義の時代へという戦後日本の変遷のなかで、**吉田拓郎の歌は戦後復興期を彩った、戦争を知らない新しい若者たちとともにあった。**

吉田拓郎が残した最も大きなもの。それはもちろん彼の歌のなかにある。

吉田拓郎の歌が持っていたものは何だったのか。それは**自分のことを自分の言葉で伝えていい**のだ、**というシンプルだが、強烈なメッセージ**であった。

吉田拓郎という人が何を歌ったのか、私たちに残してくれたものは何だったのかを、顧みられることがあまりにも少なかった彼の詞を読むことを通じて書き残しておきたい。この本を、吉田拓郎への子の世代からの手紙のように読んでもらえればと願う。

著者　**奥憲介**

◆判型　四六判並製 280P
◆本体価格　1800 円＋税
◆ISBN978-4-922497-07-4

奥憲介
文芸批評家。慶應義塾大学文学部卒業。東日本大震災、福島第一原発事故をきっかけに文学評論に取り組み始める。「開高健論―非当事者性というフロンティアを生きる」で 2018 年すばるクリティーク賞佳作。戦後文学、現代社会をテーマに文芸誌等に執筆。著書に『「新しい時代」の文学論』（NHK ブックス）、『働く文学』（東海教育研究所）。

FAX でのご注文（受注センター）

FAX：06-6310-7057
（TEL：06-6338-3078）
大阪府吹田市南金田 1-11-11-202
HP：jimotonohon.jp　発行／西日本出版社

書店名（番線）

新刊

■ISBN　978-4-922497-07-4

わたしは今日まで生きてみました
吉田拓郎の「僕の歌」と日本の青春

■奥憲介　■四六判280P　■本体1800円+税

注文数（新刊委託）　冊

ご担当　様
日付

大阪府吹田市南金田 1-11-11-202　TEL:06-6338-3078　FAX:06-6310-7057　■発売／西日本出版社

書店名（番線）

既刊補充

■ISBN　978-4-908443-98-5

生きてりゃいいさ
河島英五伝

■花房観音　■四六判200P　■本体1500円+税

注文数（注文品）　冊

ご担当　様
日付

ご希望の搬入時期　即・新刊と同時

チェックがない場合、即搬入となります。

大阪府吹田市南金田 1-11-11-202　TEL:06-6338-3078　FAX:06-6310-7057　■発売／西日本出版社